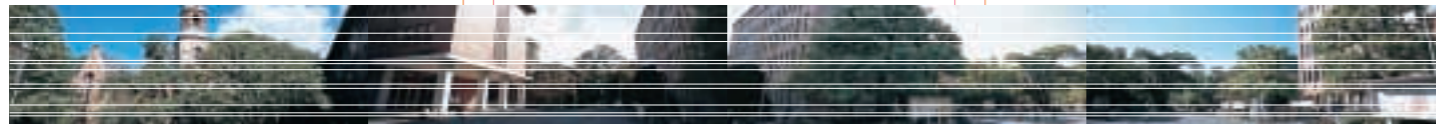


インターネット授業で新しい教育モデルを構築する

同志社大学神学部
小原研究室



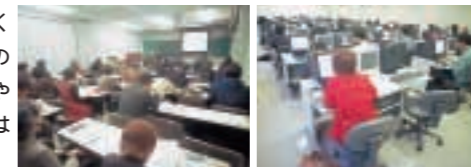
神学部助教授
小原 克博

情報教育、eラーニングなどの新たなキーワードとともに、日本の教育界にもブロードバンド化の波が押し寄せている。そんななか独自の思想をもとに、いち早くインターネット授業を導入した同志社大学神学部を訪ねた。

90分の講義内容を分割してストリーミング配信

インターネット授業を制作配信する上での留意点は

いま配信しているインターネット授業は、実際の教室でのライブの授業をデジタルビデオ撮影したものを使っています。中にはうまく撮影できず、配信用に情報メディア課のスタジオで撮影したものもありますが、通常の授業だけの場合と、インターネット授業の撮影を兼ねてやる場合は、気の使いかたも違ってきますね。実際はその場にいない視聴者に対する配慮 インターネット授業で勉強する人に向けての注意事項とか が必要な場合があります。それと時間の組みかたをインターネット授業にも合うように工夫しています。実際の授業は90分なのですが、それをまるまるストリーミング視聴するのは大変です。だからその負担をなるべく減らすために、インターネット授業では、実際の授業内容をテーマごとに分割して、質疑応答やディスカッションをのぞけば、正味の講義内容は60～70分になるようにしています。



インターネット授業ならではの楽しみ方

受講者の方々の評判はいかがですか

学生の皆さんはインターネット授業ならではの楽しみ方をしてくれていると思います。授業の映像配信以外にも、たとえば電子掲示板をコミュニケーションツールとして活用して、授業内容に関するの質問や答えのやりとりを日常的に行っていますし、授業に用いるレジュメはすべてPDF化し授業コンテンツごとにホームページ上に載せているので、いつでもダウンロード可能です。また毎回授業の小レポートを出してもらうのですが、それを履修者が相互に参照できるようデータベース化も行っていきます。

生涯学習時代

「学ぶ」ことの意味が
問い直されている時代ですね

若い時にだけ学び、その貯金で一生を送れる時代はもう終わったと思います。人間がより良く生きていくためにも、会社の中で自分をスキルアップしていくためにも、学びつづけることが必要です。高校までの半ば強制的な教育段階を終え、以後の大学での学び、生涯賭けるの学びというのは、学ぶことによって、生きていることの楽しさや責任が感じられるような学びです。そういった意味での「本来の学び」を生涯学習を通じ、これから行っていくべきだと思いますね。

教育コンテンツの社会還元

生涯学習においてインターネット授業が果たす役割は何ですか

生涯学習においては、いろいろな年齢層の人たちが、それぞれの状況いかんに関わらず、学べるための環境を準備することが必要です。たとえば会社の一線でも働く中堅層の人が、大学などの午前中の授業に来るのはなかなか難しい。であれば会社が終わり、その後の時間で学びたいという意欲を実現するための場の提供が必要でしょう。あるいは高齢者の方の場合、自由にキャンパスまで足を運べないとすると、自宅に居ながらも勉強できる環境を整えてあげるべきです。そのための一番有効なソリューションが、僕はインターネットによる授業だと思っています。と同時にそこでは、大学の中でこれまで大事に守ってきた教育コンテンツ、知的資産といったものの社会還元が重要になってくるし、大学側からの開かれた体制づくりも欠かせない大切な要素になる。たとえば僕がいまキャンパス内で行っている授業は、各世代に対しても社会に対してもオープンです。20代前後に限らず、40～60代の人もいます。82歳の方もいましたよ。学外の大学生も単位互換制という形で受講しているし、一般社会人の方々も参加しています。こういった雰囲気もインターネット授業の基本形だと思います。



総合情報センター「メディア工房」にはスタジオやビデオ編集のほか、パソコン編集、サーバなどが設備され、教材・資料などの作成が行える

20世紀的学習スタイルからの解放

「eラーニング」という言葉もありますが、
先生の考える授業スタイルとはどのようなものですか

いまのクラスは僕がコーディネーターになって、他の大学の先生がた6人くらいとチームになってやっています。講師陣も多彩で本願寺の僧籍を持った先生方も交えた形でやっている。だから今後行ってみたいものの一つとして、たとえば普通だったら見られないような本願寺の奥までカメラを入れて、そこで現場中継しながら講義をすとか、そのシチュエーションを毎回変えていくとか、そういったことをストリーミング配信していくのも面白いと思います。こういった新しいスタイルも含めインターネット授業を推進していくことによって、教室で勉強するといった学習スタイルから人間を解放すべきなんですね。学びの場というのはどこでもいいし、教室の中だけでノートを広げて、決められた時間にその空間で勉強するといったカタチ自体が20世紀的であり、前世紀的なスタイル。これはもうなんとか打破していきたいという思いがあります。学生が持っているノートPCやPDA、携帯電話などがすべて無線でネットワークされていて、キャンパスのどこにいても、それらの端末でネット授業が受信できる。そんな受け手のモビリティ環境の整備も必要だと思いますね。

テレプレゼンス

神学とインターネットの接点とは

神学は、実はインターネットを含めたバーチャルなもの一番近い存在だと思っています。何故なら、人間にはバーチャルなものや遠くのことを身体的に経験したいといったテレプレゼンス願望が大昔からあった。昔はお祭りのような宗教的な儀式の中などでそれを経験してきたのが、現代はIT技術を使ってその願望を実現している。この点で言うならITも一過性のもではなく、DNAに刻み込まれたような根元的欲求なのかもしれない。そしてそういったことについて、宗教や神学は絶えず考えてきたわけです。



学生は自宅でインターネット授業を受けられるが、もちろんキャンパス内の受講も可能。これは今出川キャンパス内の情報処理実習教室でのひとコマ

本来の意味での バーチャル

インターネット授業の将来像は

他の国に授業を配信する、あるいはそこから授業を買うといったようなことを考えています。授業単位の互換性を持たせることも可能だと思う。ただ残念なことに、行政からの支援がまだまだ進んでいません。将来的にはバーチャルリアリティを使った授業をやりたいですね。僕がホログラフのように現れて(笑)、説明に応じて立体映像が浮かび上がるような。もう10年もすればそんな段階まで行くと思うんですよ。今のブロードバンドはそこに至るまでの過程。まだまだ原始時代に過ぎないと思いますね。



校内で最初に学部専用サーバを立て、デジタル化を推進してきた小原助教授。同志社では現在、神学部と経済学部でインターネット授業が導入されている

小原克博(こはら・かつひろ)1965年生まれ。同志社大学院神学研究科博士課程修了。博士(神学)、同志社大学神学部助教授。専門はキリスト教思想、宗教学論。現代社会が直面する先端的課題に対し、フェミニズム、生命倫理、エコロジーなど多様な学問領域を切り口に、宗教、特にキリスト教の視点から応答を試みている
www.kohara.ac

同志社大学神学部
〒6028580 京都市上京区今出川通烏丸東入
www.doshisha.ac.jp(同志社大学)
theology.doshisha.ac.jp(神学部・神学研究科)
Tel.0752513120 Fax0752513080 (広報)

1875年、新島襄によりキリスト教精神に立脚した人間育成の場として創立された同志社。神学部は1948年、同校文学部神学科が独立して一学部になった。数多くの著名な神学者、思想家、教育者、社会事業家などを輩出し、現在はキリスト教を基盤とする広い教養人を輩出することを主眼としている